

大正・昭和前期に刊行された貴重な辞典類を選定・復刻!!  
文学研究や歴史研究等のレファレンスに最有用な資料

文学・言語研究資料シリーズ3

# 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】

## 全4巻

解題：澤 正宏（福島大学名誉教授）



クロスカルチャー出版

文学・言語研究資料シリーズ3

# 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】

## 全4巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■揃定価 本体120,000円+税

■体裁 B5判・上製・総約2500頁 ISBN978-4-908823-74-9 C3381

■巻構成

●第1巻

『近代詩用語辞典』河合醉茗編著（紅玉堂書店、大正13年10月5日発行）。初版。

『プロレタリア文藝辞典』山田清三郎、川口浩編著（白揚社、昭和5年8月25日発行）。初版。

『文學新語小辞典』生田長江編著（新潮社、大正6年5月15日発行）。第18版。

『モダン語辞典』鵜沼直編著（誠文堂、昭和6年2月28日発行）。第45版。

『現代術語辞典』『毎日年鑑』附録、大阪毎日新聞社、東京日日新聞社編纂（大阪毎日新聞社、東京日日新聞社、昭和6年10月1日発行）。初版。

●第2巻

『モダン流行語辞典』麴町幸二編著、喜多壮一郎（早大教授）監修（実業之日本社、昭和8年1月8日発行）。2版。

『増訂 哲学辞典 全』朝永三十郎（文学博士）編著（東京宝文館、大正8年10月10日発行）。増訂8版。

『最新 市場用語解説 別輯 英米市場用語詳解』中外商業新報社市場部編（森山書店、昭和7年12月7日発行）。再版。

●第3巻

『外来語辞典』あらかわ そうべゑ編著（富山房、昭和16年6月10日発行）。初版。

●第4巻

『英語から生れた 現代語辞典』英文大阪毎日学習号編輯局編（大阪出版社、昭和5年9月8日発行）。増補11版。

〈おすすめ先〉近現代文学研究者、日本語史研究者、近現代史研究者、大学図書館、公共図書館

好評既刊 文学・言語研究資料シリーズ 1・2

【文学・言語研究資料シリーズ1】

編集・解説 李長波 近代日本語教科書選集 第1回配本 全5巻本体 120,000円 ISBN978-4-905388-00-5

編集・解説 李長波 近代日本語教科書選集 第2回配本 全5巻本体 130,000円 ISBN978-4-905388-06-7

編集・解説 李長波 近代日本語教科書選集 第3回配本 全4巻本体 120,000円 ISBN978-4-905388-35-7

【文学・言語研究資料シリーズ2】

編集・解題 澤正宏 西脇順三郎研究資料集 第1回配本 全3巻本体 88,000円 ISBN978-4-905388-40-1

編集・解題 澤正宏 西脇順三郎研究資料集 第2回配本 全3巻本体 90,000円 ISBN978-4-905388-84-5

クロスカルチャー出版

学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-7-6

TEL : 03-5577-6707 FAX : 03-5577-6708

http://crosscul.com

取扱書店

# 刊行にあたって

福島大学名誉教授 澤 正宏

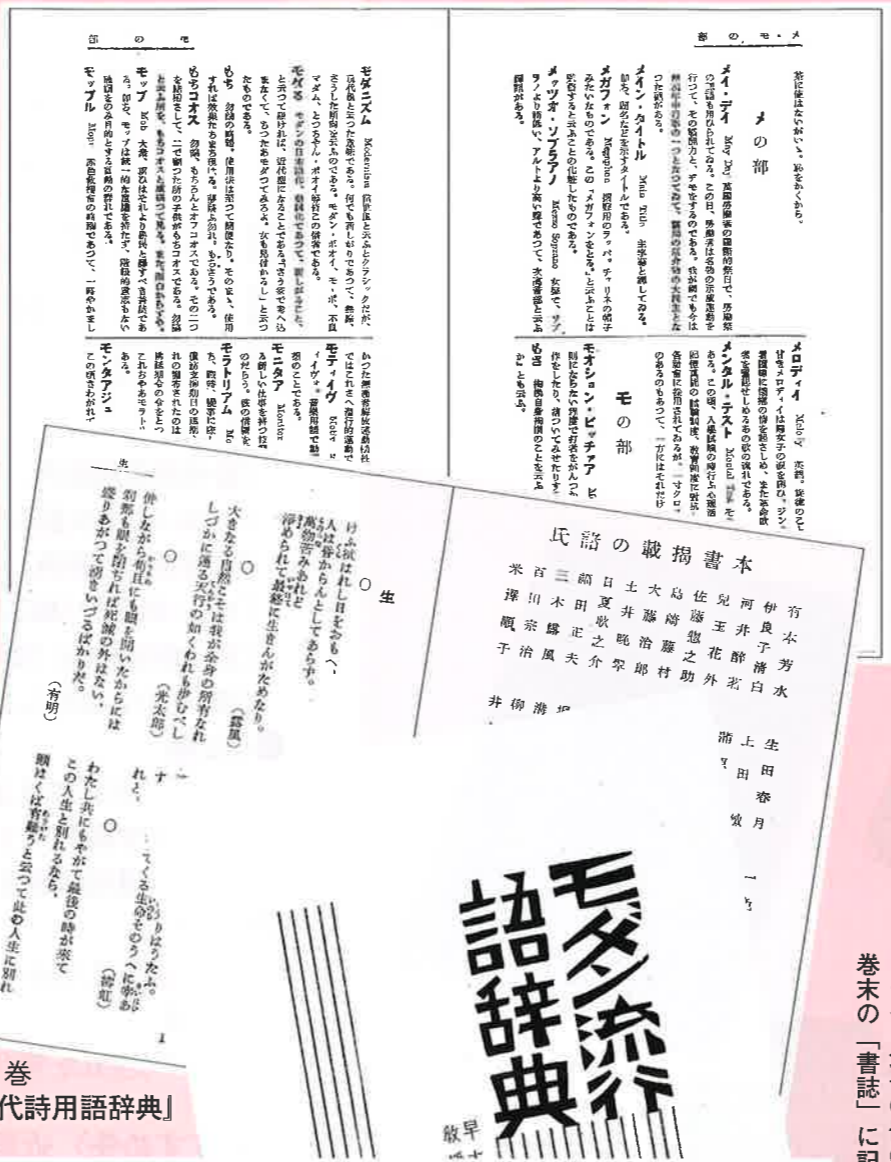
この度、〈文学・言語研究資料シリーズ〉の一環として『近現代日本語辞典選集』【モダン語辞典・事典・用語編】全四巻を刊行します。

日本が明治維新を迎えてから今日までに、ちょうど二世紀半の時間が過ぎますが、改めてこの時間を振り返ってみますと、日本に「現代」が始まった一九二〇年代を区切りとして、まずそれ以前には日本の「近代」という時期、時代がありました。この企画では、言語言葉という観点に絞り、鎖国が解かれた近代以降、欧米の制度、文化、情報を積極的に取り込み、これらと同時に競おうとする特色が顕著となる現代の始めにかけて、主に政治、経済、法律、哲学、文学・芸術など社会のあらゆる面で使用された言語、言葉を探り、日本社会の近代から現代への実相や変貌を、また、現代の始め（戦時下、一九四五年まで）のそれらを確認できればと考えています。

本選集では一九二〇年代から三〇年代半ば頃（大正九年～昭和一〇年頃）までが中心になりますので、既述したように、近代から現代へという激動期の言語、言葉を中心にすることとなります。欧米文化の単なる模倣、受容という次元の流行語、モダン（現代）語はどのように変容していったのか、台頭してきた社会運動や経済（市場）活動の実態はどうだったのかなど、本選集では所謂、外来語を抜きにはできないという大きな特色があります。今回の近代、現代という時点に立つ企画で、日本が蓄積してきた文化全般の様相を言語、言葉の観点から知ることができれば幸いです。

# “モダン日本”、時代を反映した辞・事典の数々。

## ▼第1巻『モダン語辞典』



## 内容見本

### 近現代日本語辞典選集【モダン語辞典・事典・用語編】の刊行によせて

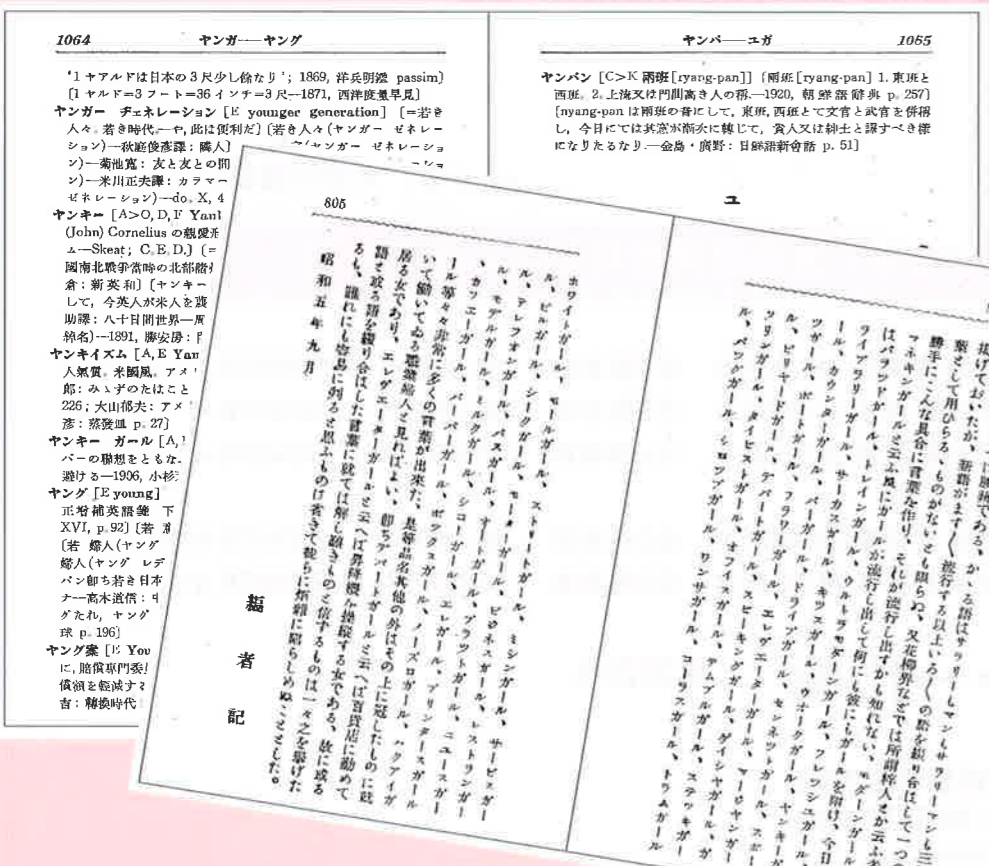
李 長波 同志社大学教授

時の俳人に「明治は遠くになりけり」と詠ませた当の昭和前期も、その後葉もろともすでに遠くになってしまった現在、この「文学・言語研究資料シリーズ」近現代日本語辞典選集【モダン語辞典・事典・用語編】の刊行によって、「現代」とは何だったのかを、われわれが改めて問われているような気がしてならない。いや、本企画の趣旨は、もしかして、われわれに「もはや現代ではない」と気づかせたいのかもしれない。

時を同じくして、遠くヨーロッパでは、ヴァレリーは、「現代人とは何か？現代人とは、生きる手段が、日々増大していく膨大な量の知識の保存、再生、更新と緊密な関係にある人間である。」（『精神』の戦時経済）、恒川邦夫訳『精神の危機』、岩波文庫、二五九頁）と、「現代人」のことを、「知識」≡「情報」の保存、再生、更新によって定義した。そして、近代がすでに現実としてあった西欧のものを後追いつるのと違って、「モダン」現代「摩登」は、世界的同時多発的に開花した「モダンズム」を、当時の人々は、正しく同時代人として生きていたのであり、その証として、人々の「モダン」意識が芽生え、それらにまつわる観念の結節があり、そしてそれを定形するための語彙が出来たのである。厳密には、「モダン」≡「近代」とすべきかもしれない。

本シリーズの辞典・事典・用語編に収録される語彙群は、近代の概念史のように近代ならではの幾分抽象的、観念的、知識的な語彙よりも、われわれの日常生活に密着した意識、観念の媒体として、「現代人」の観念の一大ネットワークと言わなければならない。そこには現在に連続する経験の始まりがあるのみならず、語彙の一つ一つには、辞典・事典類に収録されるまでの「語彙・概念・観念前史」といってべき深い奥行きがあり、地域的に広く放射線状に拡がっていく先には、当時東アジア随一の摩登（モダン）都市・上海の陰翳が見え隠れしてならない。如何せん、当時の中国は、戦乱の世の中にあつて、モダン意識や観念があつても、そして仮にそれが語彙化したとしても、それを辞書に収録するだけの精神的な余裕は持たなかった。その意味で、このシリーズの資料価値は、日本語、日本のことにとどまらず、東アジアにおけるモダンズム研究の基本文献といえよう。

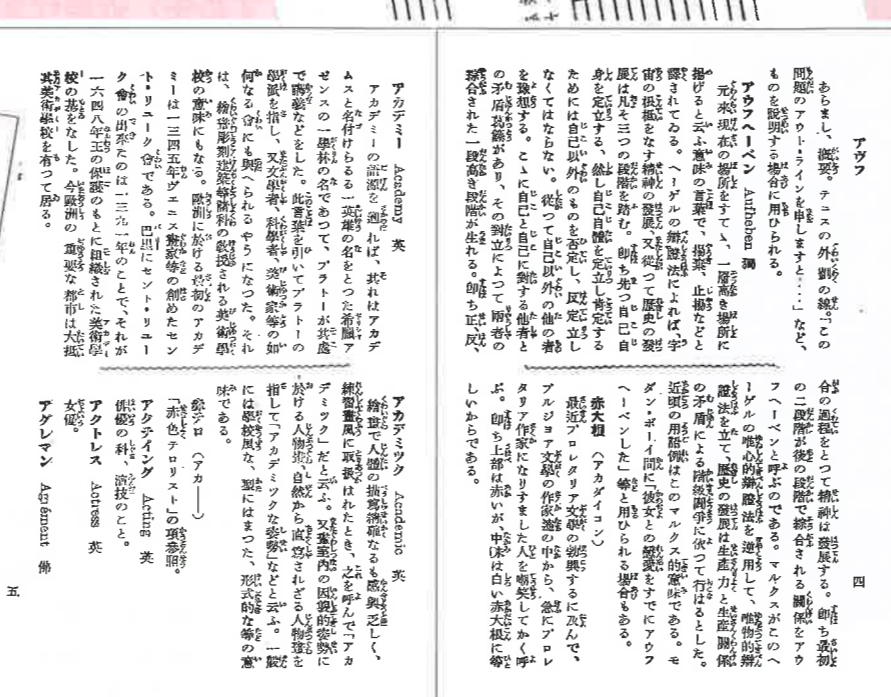
## ▼第3巻『外来語辞典』



## 特色

- 1 現代文学が台頭してくる直前の「散文」や「詩」の用語辞典を復刻し、その時代のある一つの文学認識を検討する資料とした。とくに「詩」の用語では、当時の詩の捉え方（詩観）、美（文）意識などがよく分かる。また、初期の現代文学の重要な一翼を担ったプロレタリア文学、文芸の実態を知ることができ、ピーク時の辞典を復刻し、当時の労働運動を知る資料とした。
  - 2 代表的に『モダン語辞典』（一九三二年）、『現代術語辞典』（同前）、『モダン流行語辞典』（一九三三年）などを復刻して、新時代を知るには新語、モダン（現代）語を解することだという当時の清新な風潮を伝えることとした。殆どが新聞記事や雑誌などに拠って、最新の科学、医学、化学などから映画、スポーツ、娯楽にわたる殆ど全ての分野までを網羅しており、なかには版や刷りを四〇回以上重ねている資料もある。
  - 3 『哲学辞典』を復刻し、主に古代から現代に及ぶ西洋哲学の理解に関わる、当時の日本の哲学水準の一端が理解できるようにした。約一四年間で八版（刷り）を重ねており、日本の「近代」という時代に発行されよく利用された哲学辞典としては貴重である。「市場用語」解説辞典の国内市場は当然として、殊に米国内市場を知らなければならぬ状況の下に発行されており、戦後の高度経済成長期には小説などに扱われることで、市場が広く国民の関心の対象になったが、現代の初期の市場事情を知るには貴重である。
  - 4 言語、言葉という観点からみれば、一国の力量は外国語を受容できる社会、文化の基盤があるかどうかを問われるが、この企画では、「英語から生まれた現代語辞典」と「外来語辞典」に特化して、現代初期の日本が受容した外来語を復刻した。前者は増補を含めて発行部数が百版（刷り）以上の利用実態であり、後者は収録語数は一万以上、引用・出典例は約六万の、収録の限りを尽くした辞典である。
- なお、全一〇冊の全ての辞典、事典、用語集に掲載されている収録語数はすべて各巻末の「書誌」に記してある。

## ▲第1巻『近代詩用語辞典』



## ▲第2巻『モダン流行語辞典』

## 第4巻『英語から生まれた現代語辞典』▲